

2024年度 自己評価結果と今後の課題

認定こども園岩見沢天使幼稚園

1. 園の教育目標

『子ども本来の姿を伸ばし、感謝の心と豊かな人間性を形成する』を基本に、心身の健やかな成長を図り、環境との豊かな関わりを通じて自立した生きる力を育てていく。

地域におけるすべての子育て家庭を対象に、支えとなる活動や親子の集いの場所の提供を充実させて、多様かつ総合的な支援を進めていく。

1. 感謝の心と思いやりの心を大切に
2. 個性を尊重
3. 生きる力の基礎（縦割り保育）
4. 主体的な生活と行動力
5. 豊かな体験
6. 保育と教育の一体化

2. 学校評価の具体的な目標や計画

評価項目に沿って自己点検、自己評価を実施することによって、教師自らが客観的に自園を見る目を養い、施設の改善、教育と保育内容の改善に主体的に取り組んでいくことを重点目標とする。

3. 評価項目の達成および取組み状況

評価項目	取組み状況
I 保育の計画性	異年齢の幼児が自然に交流できるような環境のもと、幼児期に相応しい安心安全な保育計画を行うことができたが、幼児の発達に応じた生活の展開や、木や草花など季節感があるものを取り入れる環境設定には個人差があり努力を必要とした。
II 保育のあり方 幼児への対応	縦割りクラスの中で、子ども同士の関係性が豊かになるようなサポートを心がける職員が多く、園児が互いに助け合い、協力する姿勢が多く見られた。目の前の子どもを思いを大切にすることで、生き生きと子どもらしい幼児の姿も多かった。 こども園になり早朝から夕方まで長時間を園で過ごす子どもも多くいるため、身体を動かす活動的な時間だけではなくおやつを提供場面でお楽しみの時間を作るなど、ゆったりした気持ちで過ごせる工夫も大切にしたい。
III 保育者としての 資質と能力	経験年数の違いから、個々の成長に合わせての細かな支援に難しさを感じる職員もいたが、先に勤めていた職員がフォローに入るなど、連携体制が出来ていたことで園全体に良い影響を与えていた。今年は正職員が少なかったことから行事等の準備に時間がかかってしまい、効率的に仕事が進められず、それぞれスキルアップの時間を取ることが難しかった。新しいことへの挑戦ができるよう時間と精神的な余裕があるとなお良かった。

IV 保護者への対応	感染症の心配が減ったことにより、各行事への保護者参加が多く、子どもの成長を一緒に喜べるよい機会となった。また、保護者アプリリーダーキッズでは、出欠からお便り、申し込み等もアプリ内で行い、ペーパーレス化によって、職員・保護者の負担軽減となった。ただ、園で過ごす子どもの様子が伝わり切っていなかったり、職員とのコミュニケーションの場があまりないと感じられたりと、保護者によって受け取りに個人差があった。情報発信だけではなく、子ども一人ひとりの成長を細かくお伝えする配慮がより一層必要だと感じた。
V 地域の自然や社会との関わり	今年も絵本作家と絵画の活動やマリンバ鑑賞などで、地域社会との交流を行ったが、来年度は園内にとどまらず、園外に出て街の人とのつながりや、岩見沢の特色を活かした保育に力を入れていきたい。
VI 研修と研究	Webと現地開催と選択肢が増え予定を調整しやすくなった。 また、冬休みに参加した岩見沢市私立幼稚園連合会による研修に複数の職員が参加出来たことも実りとなった。今後は研修での学びを保育で生かしていきたい。

4. 学校評価結果

結果	理由
A	<p>手洗いや換気を常に意識し、また発熱した園児がいればすぐに家庭へ連絡することを徹底し、感染症が広く流行せず子ども達の安全が守られていた。保護者の皆さんの早急なお迎えや、病院受診後の連絡により状況把握ができ必要に応じて注意喚起に繋がった。家庭からの協力を心から感謝したい。縦割りクラスにおいて優しく真面目な子どもたちは、自分以外の誰かが困っている時には寄り添う気持ちが育まれており、他者の気持ちに気付くこと、誰かの役に立つ喜びを感じられることなどを十分に経験できていた。</p> <p>これは子ども達の心の土台として備わっている、温かな家庭で自分たちは愛されている存在だと感じながら日々園に通えていることが根本にあるから故と感じている。職員も人を思う温かさを持ち一人ひとりの子ども達の思いを受容・共感できるよう大切に見守ってきたが、今後も人や環境が子どもを成長させることを意識しながら日々の保育を大切にしていきたい。</p>

5. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
こども園としての役割	<p>来年度は土曜日開所をスタートさせることで幼稚園教育と、保育園機能を今以上に確立させていきたい。</p> <p>引き続き縦割り保育を活かしながら、子ども達が豊かな体験を通して、好奇心・思考力・表現力の基礎を養っていくこと、また様々な経験をしたことで自信を身に着けることや、保育者の肯定的な支えにより、行動力をつけることに繋がってほしい。</p> <p>ますます多様化する社会において、卒園した後の子ども達の支えになるような、地域や人との『つながり』を大切にしたい保育を展開させたい。</p>
保育者としての資質向上	<p>教育理念を意識しながら、園の持っている温かさや保育観を大切に連携に努める。</p> <p>積極的に研修に参加し、互いの力を十分に出し合える職場を目指す。</p> <p>先を見通して早めの対応を促し、目標・目的を持っていく。</p>

健康と安全な生活	引き続き健康管理に留意し、健康であるための在り方を保育の中で学びを深めていく。 園外での経験を生かし、自分の体は自分で守る意識を活動や遊びの中から体感する。 安心安全な園生活を送るために、職員の日頃の意識向上と経営参加を目指したい。
子育て支援・園児募集	ICTを活用した発信とあらゆる保育内容を工夫して、少子化でも選ばれる園となりたい。 未就園児活動に参加した親子が、園児と交流を持てる場面を増やし、オープンな雰囲気 を大切にしていきたい。
特別支援教育	発達を促す関わりを大切に、集団活動と個別支援を適宜組み合わせながら子どもの良さを 伸ばしていきたい。

6. 学校関係者評価委員会の意見

高橋 司 様 (元小学校長・幼稚園長・岩見沢混声合唱団指揮者)

天使の先生方が、涙ぐましい努力と向上心を持って保育に取り組まれていることを見聞きし、とても嬉しく思っています。これからも子ども達に寄り添った保育に頑張ってください。保護者アンケートや自己評価結果などをふまえて感じることを記述します。

- ・今年度は、「多様な保護者の働き方や生活に合わせてあらゆる環境の子どもが公平に教育と保育を受けるという選択肢が可能となる」認定こども園岩見沢天使幼稚園として2年目を迎えた取り組みとなり、困難な中にも一歩一歩前進されていることを嬉しく思います。先生方の気づきと共通理解のもと、より良い保育と教育の一体化が前進することを願っています。
- ・天使が大切にしている〇縦割り保育による感謝と思いやりの心〇生きる力の基礎育成と個性の尊重〇自主的な生活と行動の向上〇豊かな経験（体験活動を充実）〇充実した教育と保育の一体化、これらを中心に行事や保育活動が推進されていて、園児の確かな成長に結びついているのを実感しています。このことを大切に今後も、園児の成長に力を注いで下さい。
- ・天使の園児は、神の愛、先生方の愛、保護者の愛に支えられてしっかり成長していると感じています。それは諸行事や日々の取り組みの中の子どものあふれる笑顔に表れています。
- ・天使は、今もこれまでも保護者の声に耳を傾け真剣に改善を図って取り組んできており感心していました。今後も保護者と一体となって、子ども達を育て下さい。
- ・保護者の声の中に、「卒園して小学校に入ってみて天使の子が優しい子だと感じられた」とありました。天使の大切にしている教育・保育が人として大切な心をしっかり育てていることの現れです。自信を持ってこれからも天使の教育・保育を推進して行って下さい。
- ・ICTの活用については、慣れもあり保護者の皆さんに浸透しているようですね。ICTの便利な部分と紙の持つ暖かさや安心感の部分、連絡・報告のどの部分でどちらを選択するかを十分に検討して保護者にお伝えされるのが良いかと思います。
- ・幼稚園の雰囲気・暖かさ、先生方の丁寧で優しい対応によせる保護者の信頼感と、更にそれに応えようとする幼稚園の取り組み。まさしく“教育は人なり”です。教職員の研修と相互理解、連携を深めて子どもを大切にしたいより良い保育活動に繋げて下さい。
- ・自己評価の結果に示された評価結果は適切なものであると判断します。
- ・最後に、先生方の暖かさ、優しさは健康でこそ発揮されるものです。心身の健康に気をつけられ、力を合わせて充実した保育活動を推進して行けますよう願っております。

來嶋 康之 様 (元天使幼稚園父母会会長)

天使幼稚園に長男が通い始めて長女・次女と続き、既に10年以上が経ちました。長女が卒業してから次女が通い始めるまでの空いた2年間はコロナ流行の大変な頃でした。その間の先生達の苦労は想像するしか出来ませんが、最初に園を訪れた時と今の園の印象が変わらない事が一番嬉しく思います。認定こども園に成ってからも天使幼稚園は、それぞれの園児、保護者に寄り添って考え行動してくれる先生、大人たちのいる園です。子供達の親として何よりも有難かったことは忘れません。年長さんが年下の子に教えてあげ、年少さんが年長さんを見て習う縦割りクラス活動は幼少時期の子供達にとって素晴らしい事だと思います。家族以外の初めての社会の中で思いきり遊んで欲しいです。

松井 摩美 様 (元天使幼稚園父母会会長)

昨年度より、認定こども園としてスタートし、二年が経過した今年度はさまざまな課題や、新たな試みに取り組まれていることと思います。限られた人数で対応しなければいけない事もあり、ご苦労も多かったことと思います。私が保護者として関わっていた約15年前に比べると世の中の環境は大きく変化し、スマホアプリ等の活用などが進んで、より安心して子供を預けられる環境となっているように感じます。

一方、活動の内容を拝見させていただくと、縦割り保育や園児が積極的に取り組む行事などは続けられており、天使幼稚園の変わらぬ理念と伝統を感じる事が出来ました。

<自己評価結果より>

園児一人ひとりの成長に合わせた細やかな教育を心がけておられることが伺えます。

<保護者アンケートより>

内容を拝見すると、やはり縦割り保育により、思いやりの心が育まれていることや先生方の園児に対する温かい対応が評価されているように見受けられます。

今後も社会的な労働力不足などの環境の変化によりご苦労も多いこととは存じますが、職員の皆様が教育・保育活動に健康で明るく従事できますよう心から願っております。